

《文しょうもんだい11》

文しょうもんだいを やって みよう。こたえ
を 文しょうの 中^{なか}から みつけよう。

【れいだい】

つぎの 文しょうを よんで、といに こたえ
よう。

空^{そら}を 見^み上^あげると、ゆきが ふって きました。
ふわりふわり ゆっくりと おちて きます。ま
るで、小^{ちい}さな わたあめみたい。

えみりは、ゆきを つかもうと 手^てを のばし
ます。でも、ゆきは ひらりひらりと にげて、
うまく つかめません。

こんどは、手のひらを まるく して みます。
すると、えみりの 手^ての 中^{なか}に ゆきが おちて
きました。うれしく なった えみりが ぎゅっと
手を にぎると、ゆきは きえて しまいました。

(1) えみりが、小^{ちい}さな わたあめみたいと おもっ
た ものは、なんですか。

(2) えみりが 手を にぎると、ゆきは どうな

りましたか。□に 入^{はい}る ことばを かこう。

ゆきは

しまった

【こたえ】

(1) ゆき

(2) ゆきは

きえて

しまった

【かいせつ】

文しょうの つぎの ばしよに かかれて い
ます。

(1) 空^{そら}を 見^み上^あげると、ゆきが ふって きました。

ふわりふわり ゆっくりと おちて きます。まる
で、小^{ちい}さな わたあめみたい。

えみりは、ゆきを つかもうと 手を のばしま
す。でも、ゆきは ひらりひらりと にげて、うま
く つかめません。

こんどは、手のひらを まるく して みます。
すると、えみりの 手^ての 中^{なか}に ゆきが おちて き
ました。(2) うれしく なった えみりが ぎゅっと

手を にぎると、ゆきは きえて しまいました。

つぎの 文しょうを よんで、といに こたえよう。

きみは、イルカと クジラの ちがいを しつて いますか。どちらも うみに すんで いる 大きな どうぶつです。

じつは、イルカと クジラは おなじ なかまの どうぶつです。二つの ちがいは、からだの 大きさと、口の 中には あるか ないかです。イルカは、からだ が 小なくて、口の 中には あります。クジラは、からだ が 大きくて、口の 中には ありません。

(1) イルカと クジラは どこに すんで いますか。

(2) イルカと クジラは どんな なかまですか。アから ウから えらぼう。

ア きょうだい
イ ちがう なかま
ウ おなじ なかま

(3) イルカと クジラの ちがいは なんですか。□に入る ことばを かこう。

イルカは からだが

て、

はが

。

クジラは からだが

て、

はが

。

つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

みちに まよって おかあさんと はぐれた
子^こぐまの くうたは、お月^{つき}さまに ききました。

「お月さま、おかあさんは どこに いるの。」

くうたは 目^めを まっかに して いいました。

「おかあさんに あいたいよ。」

くうたの 目から なみだが おちた ときで
した。とおくから くうたを よぶ こえが き

こえます。おかあさんに、おにいさん、となりに

すんで いる しかの おじさんの こえまで

きこえます。みんな 大^{おお}きな こえで くうたを

さがして います。

くうたは こえの きこえる ほうへ はしり

出^だしました。

(1) くうたが あいたかったのは だれですか。

アから ウから えらぼう。

ア おにいさん

イ おかあさん

ウ しかの おじさん

(2) くうたを さがして いなかったのは、だれ
ですか。アから エから えらぼう。

ア おかあさん

イ おにいさん

ウ お月さま

エ しかの おじさん

(3) みんなの こえが きこえた とき、くうた
は どう しましたか。□に 入^{はい}る ことばを

かこう。

みんなの

の きこえる

ほうへ

ました

つぎの 文しょうを よんで、といに こたえよう。

きみは、イルカと クジラの ちがいを しつて いますか。どちらも うみに すんで いる 大きな どうぶつです。

じつは、イルカと クジラは おなじ なかまの どうぶつです。二つの ちがいは、からだの 大きさと、口の 中には あるか ないかです。イルカは、からだ が 小さくて、口の 中には あります。クジラは、からだ が 大きくて、口の 中には ありません。

(1) イルカと クジラは どこに すんで いますか。

(2) イルカと クジラは どんな なかまですか。
☐ に 入る ことばを かこう。

なかま

(3) からだが 小さくて、口の 中には ある どうぶつは なんですか。

(4) からだが 大きくて、口の 中には ない どうぶつは なんですか。

つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

みちに まよって おかあさんと はぐれた
子^こぐまの くうたは、お月^{つき}さまに ききました。

「お月さま、おかあさんは どこに いるの。」

くうたは 目^めを まっかに して いいました。

「おかあさんに あいたいよ。」

くうたの 目から なみだが おちた ときで

した。とおくから くうたを よぶ こえが き

こえます。おかあさんに、おにいさん、となりに

すんで いる しかの おじさんの こえまで

きこえます。みんな 大き^{おお}な こえで くうたを

さがして います。

くうたは こえの きこえる ほうへ はしり

出^だしました。

(一) くうたは だれと はぐれましたか。アから
ウから えらぼう。

ア しかの おじさん

イ おにいさん

ウ おかあさん

(二) くうたの 目から おちた ものは なんぞ
すか。

(三) おかあさんや おにいさんは、なにを して
いますか。□に 入^{はい}る ことばを かこう。

大きな

で くうたを

います



つぎの しを よんで、といに こたえよう。

「ぼくの 」

おかあさんに あたらしい けしゴムを
一つ ^{ひと} かって もらいました。

まっ白^{しろ}で ぴかぴかの けしゴムです。

かどが とがって いて

きれいな しかくい かたちです。

ぼくの すきな いい においが します。

ぼくは なるべく

これをつかいたく ありません。

だって、まちがえた ところを けすと

ノートは きれいに なるけれど、

けしゴムは くろく なるからです。

ぼくは まちがえないように
気^きをつけます。

(1) ☐に入る ^{はい}ことばを ^{なか}しの 中から ^よ四字で

さがして、しの だいを かんせい させよう。

ぼくの

(2) あたらしい けしゴムは どんな かたちを
して いますか。

かどが

いて

きれいな

かたち

(3) なぜ ぼくは けしゴムをつかいたく ない
のですか。アから ウから えらぼう。

ア ノートが きれいに なるから

イ いい においが しないから

ウ けしゴムが くろく なるから



つぎの しを よんで、といに こたえよう。

おかあさんに あたらしい けしゴムを

一つ^{ひとつ} かって もらいました。

まっ白^{しろ}で ぴかぴかの けしゴムです。

かどが とがって いて

きれいな しかくい かたちです。

ぼくの すきな いい においが します。

ぼくは なるべく

これをつかいたく ありません。

だって、まちがえた ところを けすと

ノートは きれいに なるけれど、

けしゴムは くろく なるからです。

ぼくは まちがえないように
気^きをつけます。

(1) ぼくは どんな けしゴムを かって もら
いましたか。

で

の
けしゴム

(2) あたらしい けしゴムは どんな かたちを
して いますか。アから ウから えらぼう。

ア まんまる

イ きれいな しかく

ウ はなの かたち

(3) まちがえた ところを けすと、けしゴムは
どう なりますか。アから ウから えらぼう。

ア いい においが する

イ きれいに なる

ウ くろく なる